

折に触れ 四字熟語

NO. 166 『因果応報』 いんが おうほう

< 意味 > 人はよい行いをすればよい報いがあり、悪い行いをすれば悪い報いがあるということ。もと仏教語。行為の善悪に応じて、その報いがあること。現在では悪いほうに用いられることが多い。

出典：『大慈恩寺三蔵法師伝』七

表現：因果応報とあきらめる

用例：月日を経るに従い、これぞまさしく因果応報の戒めなるべくやと、自然に観念いたすように相成り申し候。<永井荷風・榎物語>

語釈：「因」は因縁の意で、原因のこと。「果」は果報の意で、原因によって生じた結果や報いのこと。

一言：前回取り上げた goo 辞書の「四字熟語人気ランキング」第二位の四字熟語です。何か失敗したとき自らを戒めたり、相手を諫めるときなどよく使いますね。

参考文献：岩波書店「四字熟語辞典」